



UNIVERSITY
OF
YAMANASHI

山梨大学附属図書館報

ISSN 1348-5458

やまなし

2003.12.15
vol.1

no.2

CONTENTS

2 学生の学ぶ「力」と
その支援

4 図書館利用者の声

5 学生にすすめる本

6 図書館トピックス

7 医学分館トピックス

7 図書館日誌

図書館資料利用の手引き
その2 (医学中央雑誌Web版)

The Yamanashi
Bulletin of the University of Yamanashi Library

w w w . l i b . y a m a n a s h i . a c . j p

学生の学ぶ「力」とその支援

「子ども図書室」のボランティアを通して

教育人間科学部幼児教育講座
アキヤマ アサミ
秋山 麻実

山梨大学附属図書館に「子ども図書室」(以下、図書室)ができてから、1年半が経過しました。図書室は、地域社会への大学開放と、学生の学びの場の提供をその目的としています。地域開放については、今年度、図書室は大学の地域貢献事業として、子どもの読書推進や、児童文化に関わる活動を始めました。一方、学生の学びについては、授業における図書室利用のほか、学生ボランティアが図書室の運営をすることによって、学生の主体性や問題解決能力、子どもと関わる能力を養うこととされてきました。

学生による図書室運営を通して、彼らは何を学んできたのでしょうか。私は図書室のオープンと同時期から子ども図書室専門委員会に所属し、学生ボランティアの活動を見てきました。この一年半は、学生も私たちも手探りで、今ようやく大きな課題の所在が見えてきた時期だと思います。そこで、ここでは学生の学びの質と、必要とされるサポートについて考えてみたいと思います。

現在、図書室の学生ボランティアは44名い



読み聞かせ

ます。数名のリーダーを中心に、教育人間科学部37名、医学部2名、工学部5名で構成されています。その主たる活動は、週3回の開室と、毎月開かれる土曜日のイベント開催です。具体的には、貸出業務、読み聞かせやパネルシアター、各種の遊びの発案・紹介など、子どもと関わる活動をします。また、宣伝活動や学習会なども行っています。

開設1年目は、初めての図書室運営でしたので、とにかく日常業務とイベントを軌道に乗せることが主眼となりました。昨年末から活動を引き継いだ2代目のリーダーたちは、とにかく多くの子どもたちに図書室に来てもらうことを目標としています。宣伝活動に力を入れ、遊びを多く取り入れて、定期的にイベントを開催してきました。

こうした活動によって、彼らが得るものとして、まず第一に挙げられるのは、子どもと触れ合う経験です。先日、専門委員会が行ったアンケート結果によれば、「ボランティアをやってよかったことは」という質問に対して、13人の学生が子どもとふれあえることを挙げ、さらに3人が子どもとの接し方が学べることと答えています。

第二に、絵本はもちろんのこと、パネルシアターやゲーム、工作といった遊びについての知識です。普段からちょっとした遊びや工作などを紹介できるようにと、学生たちは、新しい知識を常に探求するようになりました。

第三に、こうした知識を得るためには、興味深いものを自主的に、かつ協同して追及する力が不可欠です。ただ待っていても、子ど

もたちは図書室に来てくれないという現実のみならず，図書室を運営しているのは学生自身であるという責任感が，こうした主体的な学びを支えていると考えられます。

しかし，ボランティア間の自覚や積極性は，決して一様ではありません。ですから，第四に，ボランティアを組織していく力がリーダーには必要ですし，他の学生には主体的な参加が求められます。現実には，リーダーたちにとって，この点が最も難しい問題です。

この活動が，サークルでも授業でもないということが，問題の解決を困難にしています。活動には何らかの責任や仕事の質を求められますが，強制力はないからです。しかし，活動の単位化などによってこの困難を排することは，昨今の大学生に不足していると言われる，人と関わる能力や主体性を，彼らが得る機会を奪うことにつながります。この力を十分に育てるためには，彼らの主体性を損なわず，なおかつ，多様な学生が自発的に関わられるような活動を提案し，さまざまな形で支援していくことが必要と思われれます。

第五に，学生には，自分たちの活動を見直し，変えていく力が育ちます。2年目から，学生たちは，学習会を開いています。自主的に講師を頼んだこともありました。しかし，この点については，学生の意欲に任せるだけではないと思います。図書室で子どもたちの楽しむ姿を見るなかから生まれる反省の視点の成長には，限りがあるからです。その意味で，大学には，学内外に学生の視野を広げる機会の提供が求められてきます。例えば



人形劇（大学祭のイベントで）

学内では，現在のところ図書室は，子どもに読書機会と遊びを提供し，子どもとふれあう場所ですが，医学部の教官から，小児病棟での読み聞かせの提案を頂いたことで，学生のなかでは，彼らにできることの意味あい広がってきています。同様に，大学の色々な学問領域と子どもの読書を有機的に繋げるような提案があれば，学生は，次の活動をより発展的に考えていくことができるでしょう。

図書室を，単に子どもと関わる力を付ける場と考えるのは簡単です。けれども，活動にはさらなる発展の可能性があります。それを示唆することなく，学生の現在の活動範囲を図書室の存在意義へと短絡するのは，尚早と思われれます。学生の主体的な学びを保障するには，学生自身が問題や課題を見出し，解決へと動きだすまでの時間が必要です。そして，さらに必要なのは，学生の主体性を尊重しながら，学生がより大きく活動を広げ，課題そのものも広げて行く契機を大切にし，学生と共に学びの過程を創っていくことです。そのためにも，大学内の教職員全体の，幅広く多様な視点から，図書室に関わっていけるようなシステムが望まれると思います。

私の大事な場所 図書館

ケ-シー クレイボ-ン
大学院工学研究科 2年次生 **Cacy Clayborne**
(アメリカからの留学生)

初めて日本に来たとき、私は日本語を上手に話すことも、理解することもできなかった。日本での生活や、勉強を上手く進める為に早く日本語を理解したかったので、山梨大学附属図書館に行く事にした。入ったとたん、図書館の勉強しやすい雰囲気を感じた。日本語を勉強している外国人の為に、色々な学習参考書があるので言語の勉強もしやすくなる。私もこの本を使うと漢字、単語や文法が少しずつ分かるようになった。私には英和の文献が役に立っているが、中和、独和があるのでほかの留学生にもこのセクションが使える。ある程度日本語を理解してきた今でも、必ず図書館には行く。私の勉強では古文書を読まなければならないので、哲学や宗教的な辞典や文献を持って、2階の机に座って時間を過ごす。2階の閲覧室は、グループで勉強する所、集中できる静かな部屋、定期刊行物の部屋に分かれていて、とても勉強しやすい環境になっている。そして3階では、コンピュータが使えるようになっている。私の場合は、沢山の英字文献をいつも探しているので、インターネットアクセスが出来るのはとてもありがたい。その上、日本とアメリカでは13時間の時差がある為、電子メールで私の家族や友人と連絡が出来るのはとても嬉しい。3階も静かなので、論文誌や学会誌を参考にしながら勉強することが出来る。日本語の論文を読むのは時間がかかるので、コピー機を使って自分の為に資料を作り、書き込みをしながら今卒業に向かって論文作りに励んでいる。つまり、初めて日本に来てから、大学を卒業するまでこの図書館は私にとって大事な場所なのである。

図書館を身近にして

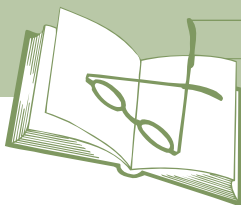
カヌカ ユウコ
医学部看護学科 4年次生 **鹿糠 悠子**
(医学分館夜間カウンター担当)

図書館の仕事を始めて3年目ですが私自身、図書館を利用する学生の立場でもあります。そのふたつの側面から山梨大学附属図書館医学分館を見てきて、感じたことがあります。

まず、利用者としてこの図書館のすばらしいと思うことのひとつに、申請すれば夜間の特別利用が可能であることがあります。このような制度を実施している図書館は少ないのではないのでしょうか。時間制限を気にすることなく、いつでも図書館に行けば勉強や調べものができるというのは本当に安心であり、特に実習中に自分のペースで図書館を利用できたのは、何より心強い味方でした。そして、特別利用が可能であるのは、利用者の図書館の利用の仕方が良いからこそ続けられているものだと思います。今後の利用者のためにも、これからも節度を保った利用法が続けられていくことを願います。その他にも図書館にはOPACによる蔵書検索や視聴覚室・学習室の利用など様々な機能があり、利用者それぞれの目的にあわせて積極的に活用し、役立てていける場でもあります。

また、カウンターの仕事をしていると、図書館には勉強をしに来る学生が目立ちます。そういった一生懸命な姿を見ていると、皆やっているな、私も頑張ろう、と励みになります。それと同時に、図書館が落ち着いて勉強できる場、仲間勉強できる場になっていることをとてもうれしく感じます。そのために、少しでも快適な環境を提供できるよう、お手伝いしたいと思います。





『夜のかくれんぼ』

星 新一著 新潮社 1985 (新潮文庫)

医学部神経内科 ^{シンドウ} **新藤** ^{カズマサ} **和雅**

私が学生に勧める一冊は、頭が疲れた時に読む本として便利な、ショートショート作家の代表である星新一の『夜のかくれんぼ』である。この本は、ショートショートによくある最後のオチがない作品が主体であり、すでに千編以上の短編を発表した後この作品には多くの社会風刺が含まれている。

最初の作品である「こんな時代が」では、理想的な近未来にいかにも起こりそうな弊害をとりあげ、次の「黒い服の男」では、まねをする人間が出ないかと心配したくなるような悪徳医者が描かれている。その他、うすのろで常識はずれの青年が最後に豹変する「うすのろ葬礼」、夢の中と現実が交錯する恐怖を描いた「殺意」、ある男の人生がテレビのチャンネルのように切り替わる「背中の音」、ミサイルの発射ボタン押し係にさせられた男の悲劇を通して現代の世の中の亭主族の実体を浮かび上がらせた「違和感」、テレポートできる能力を神様から授かった男の思い掛けない逃亡生活を描いた「追われる男」など、一話完結の読む者を飽きさせない短編28作品が収められている。

学術論文では、いかに限られた字数で読む者に分かりやすく、かつ印象づけるかが重要となってくる。これまで、歴史に残るような神経学領域の論文には思い掛けない程短いものが多い。星新一の小説は、自分の訴えたいことを表現する為には適切な長さの文章でまとめることが大切であることを教えてくれているように思う。



所蔵案内：
『夜のかくれんぼ』新潮文庫
分館 第2閲覧室，分類：913.6



「星新一の作品集17」新潮社 1975
『かぼちゃの馬車；夜のかくれんぼ』
本館 2階一般書架，分類：918.68

『寺田寅彦随筆集 第一～五巻』

小宮豊隆編 岩波書店 (岩波文庫)

工学部電気電子システム工学科 ^{マツモト} **松本** ^{タカシ} **俊**

「十時過ぎに帰って来て、袂からおみやげの金鑊と焼き栗を出して余のノートを読んでいる机のすみへ...(どんぐり)」縁日から帰った妻が勉強中の寅彦の机にそっとおく場面である。寺田寅彦(1878～1935)は地球物理学者で東大教授、漱石の「我輩は猫である」に現れる理学子寒月のモデルである。小宮豊隆が大部な「寅彦全集」から、「芸術的な香気」よりむしろ「きびしい批判力」と「真の科学的精神」に重きを置いて選んだ116編が納められている。叙情的な作品から人間、自然、社会、芸術、文学、科学と寅彦の興味は際限なく広がる。何気ない日常の光景を物理学者の目で眺め、例えば、温泉地の電線に群れて止まるトンボの体軸と電線の角度の統計分布に明瞭な誤差曲線を見だし、超高感度風向計風速計を思い描く(三斜晶系)とんびがねずみの死骸を高空から発見して急降下できる理由を考察する(とんびと油揚)どれも推理小説を読むようでどきどきさせられる。観察・仮定・論証という科学的精神の基本がわかりやすい形で随所に現れる。「外界の事物と称するものの客観的實在...は疑わないことにする。世界の人間が全滅しても天然の事象はそのまま存在すると仮定」し、しかし「経験の第一の源となる人間の五感がどれほど敏感でまた確実であるかという事はぜひとも考えて見なければならぬ(物理学と感覚)」と続く。

文庫版出版は1947年、爾来88刷を重ねている。豊かさを享受する中で科学技術の将来に不安や疑問が投げかけられさえる昨今、寅彦の「芸術的な香気」をたたえた「真の科学的精神」

が必要なとき
であろう。



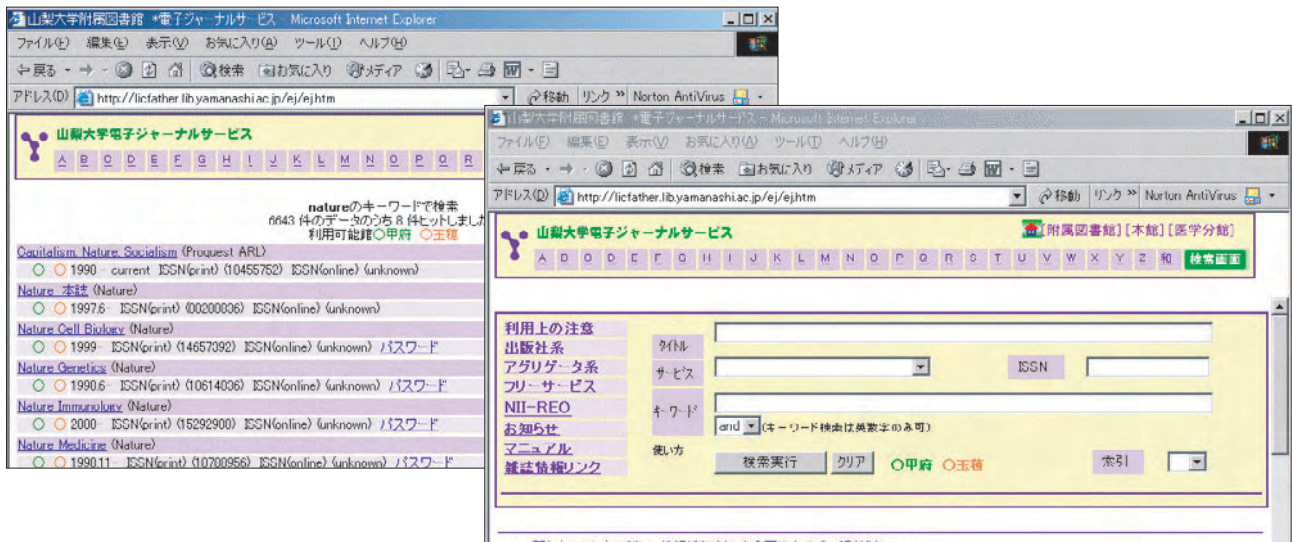
所蔵案内：
本館 2階文庫新書書架
書庫一般書架
(岩波文庫別置)

電子ジャーナルサービスの提供

電子ジャーナルは、電子化された雑誌で、インターネット経由で読むことができます。速報性に優れており、また、キャンパス間を問わず学内LANに接続可能なパソコンならどこからでも利用できるため、多くの大学図書館が研究支援活動の一つとして、導入しています。山梨大学では、甲府と玉穂の両キャンパスで、できる限り同じ環境で提供しており、大学の構成員は誰でも無料で利用できます。文部科学省から導入経費が配分されており、現在図書館が契約している有料・無料の電子ジャーナルには Elsevier Springer Wiley, Kluwer, Blackwell, Karger 各社の学術雑誌

やNatureやScience等約5,500誌ありますが、来年度からさらにCambridge University Pressのものが175誌増える予定です。

近年の学術文献データベースには、全文テキストがリンクされているものもあり、利便性も増して来ています。図書館のホームページ (<http://www.lib.yamanashi.ac.jp/>) には「山梨大学電子ジャーナルサービス」があり、タイトルからの検索もできるようになりました。お知らせ・マニュアルのページを参考に、おおいにご活用ください。紙媒体の時代から新しい電子メディアの時代といった感想を持たれることと思います。



「山梨大学電子ジャーナルサービス」の画面

有料の電子ジャーナルは、冊子体購読が前提である場合が多い一方で、電子ジャーナルのみ購入できるケースも増えて来ています。国立大学図書館協議会のコンソーシアムに参加することによって、比較的有利な条件で導入していますが、その財源については今後大学として活発に議論されるべき課題となっています。

図書館が中心となって「需要の多い外部電子資料へのアクセスを組織化すること」が最重要課題であり、大学の学術情報基盤をどうするかについて、図書館が今まさに先導的な役割を果しつつあると言えます。

なお、電子ジャーナルに関するお問い合わせは、雑誌情報係(220・8068)・電子情報係(220・8064)までお気軽にお寄せください。

(文責：雑誌情報係)

“いのち”を読む 「朗読と音楽の夕べ」の開催について

医学分館では、“生と死のコーナー”関連行事として、平成15年10月30日（木）医学分館2階第三閲覧室において、“いのち”をテーマとした「朗読と音楽の夕べ」を開催しました。

この催しは朗読という形で、文学を通して、“いのち”の喜び・尊さ・切なさを考える機会を提供することを目的とし、朗読を玉穂町朗読サークル「ごくらくとんぼ」に、フルート演奏を玉穂町在住の山縣仁美さんに依頼し、地域の方々と一体となり実施しました。

当日は、学内の教職員・学生等本学関係者、及び地域の方々が約70名来場し、図書に囲まれ落ち着いた雰囲気の中で行われ、時には朗

読にひき込まれ目頭をおさえる姿もみられました。

医学分館では、今後も従来の図書・雑誌資料等の提供だけでなく、医学・医療等に関する有益な情報を学内外の利用者に提供する企画を計画していく予定です。



<15.6.1 ~ 15.11.30>

図書館日誌

学外動向

- 15.6.24 第28回国立医科大学附属図書館会議
(於：マロウドイン大宮) 参加者：中井図書課長
- 15.6.25 国立大学図書館協議会第50回記念総会
(於：パレスホテル大宮) 参加者：村上図書館長，中井図書課長
- 15.10.30 国立大学図書館協議会理事会（平成15年度第3回）
(於：名古屋大学) 参加者：中井図書課長
- 15.11.12 第36回関東地区国立大学附属図書館事務（部・課）長会議
(於：宇都宮大学) 参加者：中井図書課長
- 15.11.27 ~ 28 第16回国立大学図書館協議会シンポジウム
(於：一橋大学) 参加者：中井図書課長

学内動向

- 会議 15.06.19 第15-1回山梨大学附属図書館医学分館運営委員会
- 15.07.08 第15-2回子ども図書室専門委員会
- 15.07.30 第15-2回山梨大学附属図書館運営委員会
- 15.09.16 第15-3回子ども図書室専門委員会
- 15.09.19 第15-2回山梨大学附属図書館医学分館運営委員会
- 15.10.03 第15-4回子ども図書室専門委員会
- 15.11.11 第15-5回子ども図書室専門委員会
- 15.11.20 第15-3回山梨大学附属図書館運営委員会

(次ページに続く)

研修会・講習会等への参加 <14.10.1~15.11.30>

- 14.10.02 メタデータ・データベース共同構築事業説明会(於：学術総合センター)
参加者:金丸図書情報係長,城倉電子情報係長,水上医学情報サービス係長
- 14.10.10 国公立大学図書館協力委員会主催平成14年度シンポジウム
(於：慶應義塾大学)参加者：内藤医学情報管理係長
- 14.10.23~10.25 NAIST電子図書館学講座(於：奈良先端科学技術大学院)
参加者：塩澤情報サービス係員
- 14.11.26~11.27 第15回国立大学図書館協議会シンポジウム(於：千葉大学)
参加者：藤田雑誌情報係長,渡邊医学情報管理係員
- 15.02.12~02.13 第2回関東地区女性職員のためのエンパワーメントセミナー
(於：人事院関東事務局)参加者：水上医学情報サービス係長
- 15.03.05 第1回NII国際シンポジウム(於：国際連合大学)
参加者：藤田雑誌情報係長
- 15.03.11 電子ジャーナル・ライセンスの動向講演会(於：学術総合センター)
参加者：渡邊医学情報管理係員
- 15.07.12 第20回医学情報サービス研究大会(於：京都府立医科大学)
参加者：水上医学情報サービス係長,富士医学情報サービス係員
- 15.08.06~08.08 平成15年度図書館等職員著作権実務講習会(於：東京大学)
参加者：越石情報サービス係長
- 15.09.12 法人化後のILL複写料金決済処理に関する東京地区説明会(於：東京大学)
参加者：越石情報サービス係長,弦間総務係主任
- 15.09.19 第19回大学図書館研究集会(於：早稲田大学)
参加者：青柳総務係主任
- 15.09.29~10.10 平成15年度総合目録データベース実務研修(於：国立情報学研究所)
参加者：塩澤医学情報管理係員
- 15.10.23~10.24 第37回関東地区国立大学附属図書館職員研修会(於：埼玉大学)
参加者：北原情報サービス係員,富士医学情報サービス係員
- 15.11.11~11.14 第23回西洋社会科古典資料講習会(於：一橋大学)
参加者：渡邊図書情報係員
- 15.11.27~11.28 第16回国立大学図書館協議会シンポジウム(於：一橋大学)
参加者：内藤医学情報管理係長

お知らせ

* 創刊号で紹介された図書の新着案内

次のとおり配架しましたので、ご利用ください。

- ・ 『ピアノを弾く身体』(岡田暁生監修)
本館 2階一般書架,分類:763.2
- ・ 『いのち長き時代に』(朝日新聞社会部著)
医学分館 生と死のコーナー,分類:367.7

* 図書館資料利用の手引きの活用方法

各号で紹介する「図書館資料利用の手引き」は本体から取り外し,バインドして保存することにより,効果的な利用が可能となりますので,大いに活用してください。



山梨大学附属図書館報「やまなし」
第1巻第2号

2003年12月15日発行

編集：館報編集委員会

発行：山梨大学附属図書館

〒400-8510

甲府市武田四丁目4-37

TEL 055-220-8063

印刷：横河グラフィックアーツ(株)

(表紙撮影：図書課専門職員 田中成人)

医学中央雑誌Web版ってなに？

「医学中央雑誌Web版」は、国内で発行されている医学・歯学・薬学および看護学，獣医学などの関連領域を対象とした抄録誌*「医学中央雑誌」(医学中央雑誌刊行会作成・提供)のWeb版で，国内では代表的な医学関連の文献情報データベースです。

*抄録誌：学術文献などの内容を要約したもの

文献情報は，大学・学協会・研究所・病院などから発行されている雑誌，営業誌，学会等の会議録，講演集，公共資料など，約2,400誌から収録され，収録期間は1983年～現在までです。

更新頻度：毎月

医学中央雑誌Web版を使ってみよう

データベースへログイン

[附属図書館ホームページ] <http://www.lib.yamanashi.ac.jp/> にアクセスし，データベースの中の「医中誌Web」をクリックします。現在，医中誌Web版は，ver.3までリリースされていますが，当分の間ver.1も利用可能です。以降ver.3で説明します。



検索対象年

検索画面へ

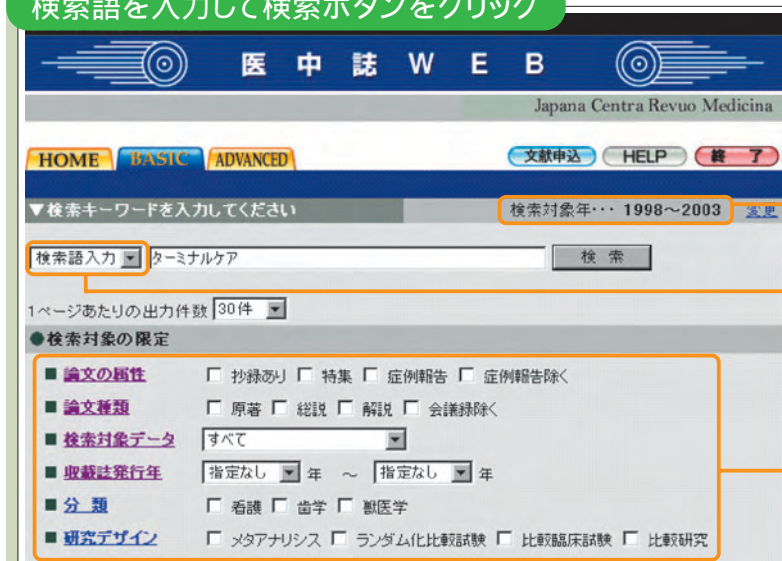
BASIC MODE : 検索結果に対してキーワードを追加していく要領で検索が可能です。追加する演算子はand, or, notから選べます。特に指定をしないとand検索になります。

ADVANCED MODE : 検索結果の番号(# 1 , # 2 など)を使った掛け合わせや「候補語辞書の参照」検索ができます。

step 1

(例)「ターミナルケアにおける家族の介護」に関する文献を探す。

検索語を入力して検索ボタンをクリック



検索対象年

プルダウンで検索対象を 著者名，収録誌名，所属機関名に限定可能。

[検索対象の限定] で検索条件を指定可能。

step 2

検索結果の表示・絞り込み検索

検索結果件数

検索語の入力では、[論理演算子 (and・or・not)] を使った検索も可能。andは省略可。

検索結果をさらに検索語で絞り込む

検索結果を [絞り込み検索画面] で絞り込む

step 3

詳細データの表示

表示件数の変更

詳細なデータを表示するのは、文献番号をクリックするか、チェックボックスをチェックし [もっと詳しい情報を表示] をクリックする。ただし、チェック項目は当該ページのみ有効であるので、適宜表示件数を変更する。

終了するときは **終了** ボタンをクリック

山梨大学内からの同時アクセス台数は8台です。終了を行わないでブラウザを終了させてしまうと10分間経過するまで1人分のアクセスが確保された状態になってしまいます。

検索についての詳細はHELP画面を参照してください。



お問い合わせは： 本館 甲府 電子情報係
医学分館 玉穂 医学情報サービス係

内線8064
内線2109

図書館資料利用の手引き
その2 (医学中央雑誌Web版)